

## 小中学校教職員意見交換会での部活動に関する意見

開催日時 令和元年8月5日(月)午後2時～4時

場所 学びの里「めいりん」

参加人数 112人

## 主な意見

- ・部活動の適正な規模が必要。中学校2校。
- ・部活動は社会教育に任せて気にしない。
- ・部活動指導員の積極的な活用を行い、中学校教員の負担を軽減。
- ・中学校2校にして部活を男女で分ける。例：A中学校は男バスケ、女バレー、男卓球、女バドミントン、B中学校に女バスケ、男バレー、女卓球、男バドミントンなど。
- ・学社融合も含めた部活動指導の柔軟化が必要である。
- ・ある程度、子どもたちが選択できるぐらいの数があると良い。教員は2人以上の体制で。
- ・部活動は必要だが外部に任すことができる種目については、外部に任せていく。
- ・機能しなくなるので中学校の人数が少ないこと考えないといけないが、部活動だけで統廃合は決められないと思う。
- ・再編で人数が増えたら、部活、金管クラブなどの指導が大変になるのでは。
- ・みんスポのような市全体で取り組める部活動にして、移動はスクールバスを利用する。
- ・部活動で選択肢の幅があまりにも少ないのは駄目である。複数校で合同でというのも移動時間の制約が出てやりにくい。
- ・大野市の中学校の枠を解いて部活動を運営するシステムを新しく作る。
- ・選べた方が良くと思うがそこまでしたいものがあれば、校区外通学をするべきで、基本は学校人数でクラブ数を決める。
- ・大野市で管理し、種目を多くする。
- ・部の数はなるべくたくさん作り、大人数だからこそ出来るものを。
- ・部活にこだわらず、校外でもやりたい活動が出来る環境が整うと良いと思う。
- ・教員以外も含んで指導者の専門性を向上し、子どもに部活動の選択の幅を広げてほしい。
- ・部活動の学校の枠を解くとともに、中体連の運営の見直しを図る。
- ・学校単位でなく地区の活動として取り組む方が良い。
- ・部活動については考えなくて良い。
- ・部活動と生徒指導はイコールではない。
- ・集団での部活が大事である。